

伊万里・有田消防組合行動計画達成表

【行動計画の構成】

施策体系	主要な施策	担当課
01 消防活動体制の充実強化	0101 現場到着時間の短縮	警防課・救急課
	0102 初動体制の強化	警防課・消防2課
	0103 防災体制の充実強化	警防課・消防2課
02 消防体制の基盤の強化	0201 消防車両等整備	警防課・消防2課
	0202 消防用資機材整備等	警防課・消防2課
	0203 消防庁舎等整備	総務課・消防1課
	0204 消防通信指令体制の整備	警防課
03 救急需要対策の推進	0301 救急救命士の計画的養成	救急課・消防2課
	0302 応急手当の普及啓発	救急課・消防2課
	0303 救急活動体制の充実強化	救急課・消防2課
	0304 救急用資器材等整備	救急課・消防2課
04 火災予防の推進	0401 防火思想の普及啓発	予防課・消防3課
	0402 予防査察体制の充実強化	予防課・消防3課
05 消防行政運営の効率化	0501 職員採用計画の策定	総務課
	0502 職員研修体制の充実	総務課
	0503 事務執行体制の効率化	総務課
	0504 経営的効率性の向上	総務課

※ 評価は、平成30年度の目標値に対しての達成値を記載しており、その評価を「S」：100%達成「A」：80%以上達成「B」：60%以上達成「C」：取り組み不足の4段階としています。なお、改善の余地がある場合は意見を示し、今後の行動計画に反映させていただきます。

0101 現場到着時間の短縮 <<評価・改善>>

指 標	(平成 28年度) 現状・平均値	(平成 29年度) 目 標 値	(平成 30年度) 目 標 値
建物火災の放水開始 時間 (平均)	10.3 分	10.2 分 (10分12秒)	10 分
達成値	—	13.5 分 (13分30秒)	14.8 分 (14分48秒)
救急車の現場到着 時間 (平均)	8.0 分	7.9分 (7分54秒)	7.8 分 (7分48秒)
達成値	—	8.2分 (8分12秒)	8.1 分 (8分06秒)
119 番受信訓練	年 4 回	年 4 回	年 4 回
達成値	—	年 2 回	年 4 回
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物火災の放水開始までの時間は、目標とする数値を達成することができませんでした。 ・救急車の現場到着時間は、昨年より 6 秒短縮となりましたが目標達成はできませんでした。 ・119 番受信訓練については、目標としている年 4 回の訓練を実施することができました。 			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物火災の放水開始時間：今年度、放水活動を行った建物火災は 10 件で入電から出動までの平均時間が 3.2 分、現場到着から放水開始までの平均時間が 6.0 分となっているため、特に、現場到着から放水開始までの時間短縮が必要です。 ・救急車の現場到着時間：入電から現場到着までの時間を各署所で比較すると、伊万里消防署が平均 7.3 分であるのに対し、管轄外への出動が多い北分署は平均 10.3 分となっています。救急出動件数が過去最多を更新する中、一時的に救急隊が不足する地域に他の救急隊を配置する等の取り組みについて検討する必要があります。 ・119 番受信訓練：119 番通報受信時の正確かつ迅速な場所の特定は、災害出動までの時間短縮となり、救急事案においては適切な口頭指導が救命率の向上にもつながるため、今後も聴取技術の向上のため年 4 回の訓練を維持していきます。 			
<p>担当者所見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 秒でも早く放水活動を行うために、出動訓練や現場到着後の初動活動強化を目的とした訓練を反復し時間短縮を図ります。 ・今後も救急件数の増加が予想され、管轄外への出動に伴う現場到着時間の遅延が危惧されますが、通信指令室の統制による的確な部隊運用を行い、通報から現場到着までの時間短縮に努めていきます。 			

0102 初動体制の強化 <<評価・改善>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
1次出動の台数 (建物火災の平均)	4台	4台	4台
達成値	—	4台	4台
救助隊員資格者	充足率37%	充足率41%	充足率55%
達成値	—	充足率53%	充足率40%
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・平成30年度は21件の火災があり、事後聞知などの小規模な火災等を除き、目標としている4台以上の出動車両を確保できました。うち4件の火災には、伊万里と有田の両消防署から出動し消防活動を実施しました。 ・救助隊員の資格者については、平成30年度も2名の職員を消防学校救助科に入校させ、充足率の向上に努めました。しかし、人事異動による有資格者の配置換えが要因で、充足率が低下する結果となりました。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・建物火災の延焼を阻止するには、初動の消防力が重要であるため、今後も効率的な部隊運用を目指します。 ・救助隊員は、火災や事故現場など特殊な環境下で救助活動に従事することから、計画的な育成と適正な配置が必要です。人事担当課と連携して充足率の向上に努める必要があります。			
担当者所見 ・当消防組合は、警防隊（消防隊）と救急隊などを兼務する隊員が多く、車両を乗り換えて運用していることから、効率的な部隊運用が特に求められます。配備車両の機能などを踏まえながら、出動台数等を検討していく必要があります。 ・消防職員の職務は複数の分野に分かれており、他の業務を経験することで個々の能力が、より高くなります。このため、定期的な人事異動を考慮すると、今後も消防学校等への入校を継続し、救助隊員の育成に努めていく必要があります。			

0103 防災体制の充実強化 <<評価・改善>>

指 標	(平成28年度) 現状・平均値	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
応援・業務 協定等の数	5	5	6(継続)
達成値	—	6	6
関係機関連携訓練	0回	年1回	年3回
達成値	—	3	6
<p>評 価 <input checked="" type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応援・業務協定の数については、平成29年度に佐賀県生コンクリート工業組合と災害時における消防用水等の供給支援に関する協定書を取り交わしており達成値を6としています。 ・ 関係機関連携訓練については、緊急消防援助隊九州ブロック訓練のほか、佐賀県警察、伊万里海上保安署、九州電力株式会社、佐賀県生コンクリート工業組合、九州液化瓦斯福島基地株式会社との訓練を実施しています。 			
<p>改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応援・業務協定の数については、現在充足しており、特に改善する必要はありません。 			
<p>担当者所見</p> <p>応援・業務協定数の内訳は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急消防援助隊佐賀県大隊の応援出動における食料等の供給に関する協定 ・ 伊万里海上保安署と伊万里・有田消防本部との船舶消火に関する業務協定 ・ 伊万里・有田消防組合、長崎県松浦市間の常備消防相互応援協定 ・ 伊万里・有田消防組合と長崎県佐世保市間の常備消防相互応援協定 ・ 佐賀県常備消防相互応援協定 ・ 災害時における消防用水等の供給支援に関する協定 <p>以上、災害時における協定については充足しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関連携訓練については、九州電力との送電線事故合同訓練(鉄塔)を県内で初めて実施し、大変有意義な訓練が行われました。 			

0201 消防車両等整備 <<評価・改善>>

指 標	(平成28年度) 実績値	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
消防車両等の整備	3台	1台	3台
達成値	—	1台	3台
評 価 <input checked="" type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・平成30年度は、伊万里消防署の化学消防ポンプ自動車、東分署の消防ポンプ車（1,100ℓ水槽付）を更新しました。 ・総務省消防庁無償使用車両の津波・大規模風水害対策車が配備されました。			
改 善 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持			
意見 ・総務省消防庁無償使用車両の津波・大規模風水害対策車が、平成30年10月に配備され風水害や土砂災害のほか、水難事故に対する救助体制が整備されました。			
担当者所見 ・平成29年度 有田消防署救急車 計1台 ・平成30年度 伊万里消防署：化学消防ポンプ自動車、津波・大規模風水害対策車 伊万里消防署東分署：消防ポンプ車 計3台 上記のとおり目標値を達成することができました。			

0202 消防用資機材整備等 <<評価・改善>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
消防用ホース	40本	40本	40本
達成値	—	40本	108本
防火衣一式	8着	8着	8着
達成値	—	8着	8着
空気呼吸器一式	3式	2式	0式
達成値	—	5式	8式
空気呼吸器用ポンペ	0本	4本	4本
達成値	—	5本	8本
ウエットスーツ	4式	2式	4式
達成値	—	2式	0式
ドライスーツ	0着	1着	2着
達成値	—	1着	0着
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・消防車両の更新に合わせて目標値以上の整備ができましたが、一部の資機材（ウエットスーツ、ドライスーツ）で更新ができませんでした。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・今後も、災害活動に不可欠な消防用資機材の計画的な更新、整備に努めます。			
担当者所見 ・災害活動時における隊員の安全を補完する装備の充実ができています。			

0203 消防庁舎等整備 <<評価・改善>>

指 標	(平成28年度) 現状・平均値	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
伊万里・有田消防本部及び他の施設	41年経過	整備計画検討	整備計画検討
達成値	—	議論の開始 S	C
伊万里消防署	41年経過	整備計画検討	整備計画検討
達成値	—	C	C
有田消防署	45年経過	用地購入・基本設計	新庁舎実施設計
達成値	—	用地購入次年度 B	A
伊万里消防署東分署	36年経過	整備計画検討	整備計画検討
達成値	—	C	C
伊万里消防署西分署	38年経過	整備計画検討	整備計画検討
達成値	—	C	C
伊万里消防署北分署	33年経過	整備計画検討	整備計画検討
達成値	—	C	C
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C			
意見 ・有田消防署については平成30年度までに実施設計が完了し、平成33年（令和3年）3月の完成に向け順調に進んでいます。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・庁舎建設には莫大な予算が必要になるため、現状としては修繕等を行い、維持管理に努めています。			
担当者所見 ・施設の老朽化により、年々修繕しなければならない箇所も増えてきているのが現状です。予算の問題がありますが、施設計画を作成して進展させなければならないと考えています。			

O204 消防通信指令体制の整備 <評価・改善>

指 標	(平成28年度) 現 状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
無線運用マニュアル	策定準備	策定	運用
達成値	—	策定準備	策定準備
通報時口頭指導訓練	年0回	年4回	年4回
達成値	—	年2回	年4回
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・無線運用マニュアルについては、精査作成中であり、策定・運用に向け取り組んでいます。 ・口頭指導訓練については、通信指令業務に従事する全職員を対象に行っており、目標値である年4回の訓練を実施することができました。 また、新任や異動してきた職員には、口頭指導訓練とは別に通信指令システムの操作訓練も行いました。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・聴取方法や口頭指導については、勤務日に実施している救急症例検討会の中で、救急隊と合同で研修を行い、救命率の向上に向けて取り組むことができました。また、通信指令システムに入力している口頭指導内容の改善を随時行い、指導力の向上を図りました。			
担当者所見 ・無線運用マニュアルについては、現場活動に大きく関わる部分であるので、熟考を重ねてスムーズな運用を目指し、早急に運用開始できるよう取り組みます。 ・口頭指導は、専任の指令員については救急隊員との研修を継続し、口頭指導や聴取内容等に深みを持たせ、より良い指導ができるように努めていきます。また、通信指令業務に従事する他の職員についても、専任指令員の指導のもと口頭指導や聴取の質が向上するように育成していきます。			

0301 救急救命士の計画的養成 <目標・指標>

指 標	(平成28年度) 現 状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
救急救命士養成	1人	1人	1人
達成値	—	1人	1人
評 価 <input checked="" type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・計画どおりに養成できており、目標を達成しています。			
改 善 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持			
意見 ・救急隊だけでなく各種災害時においても即応できるよう警防隊、救助隊、通信指令室への救急救命士の配置が必要であり、有資格者の人事異動等（退職者含む）が生じても安定的な救急救命士の配置ができるよう、年度毎の計画的な養成に加え、有資格者の積極的採用が必要です。 ・救急件数の増加や救急業務の高度化等により、救急救命士の業務負担は大きく、労務管理に関する対策においても救急救命士の計画的養成は必要不可欠です。			
担当者所見 ・事業計画を含め、救急救命士養成（配置）計画を再検討する必要があります。			

0302 応急手当の普及啓発 <目標・指標>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
応急手当講習者数	4,000人	4,100人	4,200人
達成値	—	3,411人	3,371人
評 価 <input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・目標値の80%以上は達成できましたが、近年は受講者が減少傾向にあります。 （平成27年度4,133人、平成28年度3,918人、平成29年度3,411人）			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・現在、応急手当講習については、各企業や事業所等からの受講依頼に対して実施しており、受講経験者に対しては、レベルの高い講習の受講推進をより強化する必要があります。 ・ホームページに掲載している応急手当講習の内容等を活用し、積極的な受講を促す必要があります。			
担当者所見 ・住民による応急手当の実施は、救命率及び社会復帰率の向上に非常に重要であることに変わりなく、今後一層の推進を図る必要があります。大幅な受講者の増加が見込まれない現状ではありますが、住民の講習会に対する意識は非常に高いと感じており、今後は受講者数を維持しつつ、質の高い講習会へシフトして行く必要があると考えます。			

0303 救急活動体制の充実強化 <目標・指標>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
救急専用施設整備	事業計画協議	事業計画協議	運用開始
達成値	—	計画協議・予算案提出	設計業務委託
病院研修事業	11人	12人	11人
達成値	—	12人	11人
処置拡大追加講習	4人	4人	4人
達成値	—	4人	4人
気管挿管救命士養成	1人	1人	1人
達成値	—	1人	1人
口頭指導実施要綱	要綱案策定中	策定・運用	運用
達成値	—	策定・運用	運用中
関係機関連携訓練	年3回	年3回	年3回
達成値	—	年3回	年3回
<p>評 価 <input checked="" type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね計画どおりに実施できており、目標を達成しています。 			
<p>改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急専用施設整備については、平成31年度（令和元年度）中に建築工事を行い、運用を開始する予定です。 研修、講習、養成及び訓練については、目標値を達成しており、今後も計画的に事業を遂行する必要があります。 口頭指導実施要綱については、策定が完了し平成29年2月1日から運用を開始しています。 			
<p>担当者所見</p> <ul style="list-style-type: none"> 処置拡大追加講習は、平成32年度（令和2年度）に2名を派遣し終了する予定です。今後は指導救命士の養成を計画しています。 			

0304 救急用資器材等整備 <<目標・指標>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
患者監視装置更新	1台	1台	1台
達成値	—	1台	0台
人工呼吸器更新	1台	1台	1台
達成値	—	1台	0台
除細動器更新	0台	1台	1台
達成値	—	1台	0台
評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C			
意見 ・更新ができず、目標を達成できていません。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・救急業務規程に基づき、伊万里・有田消防組合救急資器材整備計画を策定し、更新を行っていますが、車両の更新計画等と照らし合わせ、ローリングを行いながら整備を行っていく必要があります。			
担当者所見 ・救急車両の更新、新規車両の導入等を考慮しながら整備していく必要がありますが、高度救急資器材の維持管理は必要不可欠であることから、伊万里・有田消防組合救急資器材更新計画を基本方針として整備していく必要があります。			

0401 防火思想の普及啓発 <<目標・指標>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
住宅用火災警報器 設置率	81%	83%	85%
達成値	—	83.0%	86.5%
住宅用火災警報器 CM放映	計画	制作	放映
達成値	—	制作・放映	放映
臨時職員の配置	0人	1人	1人
達成値	—	0人	0人
貸出し用訓練 消火器購入	整備計画策定	運用	25本
達成値	—	コミュニティ助成事業で 申請	37本

評 価 S A B C

意見

・防火思想の普及啓発活動に対する事業については、計画的に事業を遂行でき、目標を達成できています。特に、平成30年6月1日現在の住宅用火災警報器設置率は、全国の81.6%を上回る86.5%でした。

改 善 拡大 全部改善 一部改善 廃止 縮小 維持

意見

・住宅用火災警報器の設置義務化から10年が経過し、取り換え時期となっていることから、取り換えを含む維持管理に関する広報を行っていくと同時に、今後も未設置世帯に対する設置推進が重要です。

・住宅用火災警報器CM放映については、計画的に放映を継続したいと考えています。

・臨時職員の配置については、人事に関することが含まれていることから、担当所管の総務課との協議が必要です。

・貸出し用訓練消火器購入については、コミュニティ助成事業により目標値以上を整備することができました。

担当者所見

・火災予防が認知され、防火思想が浸透していくには時間を要します。したがって、各種広報や防火安全指導等において、住宅用火災警報器や消火器の設置について普及啓発活動を行い、設置率の向上を図っていきます。住民の生命、身体及び財産を火災から保護するため、取り組みを継続していく必要があります。

0402 予防査察体制の充実強化 <目標・指標>

指 標	(平成28年度) 現 状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
防火対象物 立入検査実施率向上	20%	22%	24%
達成値	—	17%	17%
分署への専門 職員配置	3人	6人	9人
達成値	—	5人	5人
消防優良民泊 制度策定	検討	制度策定	運用
達成値	—	制度策定	運用開始
違反是正実務研修	派遣計画検討	派遣1人	派遣1人
達成値	—	派遣1人	派遣1人
予防ブラザー 制度の導入	検討	運用要綱策定	運用開始
達成値	—	運用見直し	再検討
<p>評 価 <input type="checkbox"/> S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 防火対象物立入検査実施率については、目標値24%に対し達成値17%と目標値に届きませんでした。(伊万里消防署：146件、有田消防署：119件、北分署：112件、東分署：108件、西分署：70件、計：555件) 分署への専門職員配置は、目標値9人に対し5人配置と目標値に到達しませんでした。(専門職員とは、予防査察科及び九州予防実務研修修了者又は予防技術資格者(防火査察、消防設備、危険物)のことを指す。) 消防優良民泊表示制度を運用開始し、平成30年度は1件の民泊施設に表示マークを交付しました。 違反是正実務研修については、佐賀広域消防局へ職員を派遣し、違反処理に関する知識等のスキルアップを図りました。 予防ブラザー制度の導入は、運用見直しを行い再検討中です。 			
<p>改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持</p>			
<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、全国的に、住民や建物関係者等の安全・安心に影響を及ぼすおそれがある重大違反対象物の違反是正が進められており、当消防組合においても違反処理マニュアルを作成し、重大違反の是正に力を入れています。今年度は、この違反是正を重点的かつ優先的に実施した結果、立入検査の実施率が達成できませんでした。 分署への専門職員配置については、人事に関することが含まれることから、所管する総務課との協議が必要です。 予防ブラザー制度は、現在当消防組合が実施している人事評価制度と重複する部分があるため、廃止を含め検討中です。 			
<p>担当者所見</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、一部について目標を達成することができましたが、今後は実情にあった指標設定や目標値の見直しが必要と考えます。 			

0501 職員採用計画の策定 <<目標・指標>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
職員前倒し採用	0人	0人	2人
達成値	—	0人	2人
再任用職員採用	0人	0人	1人
達成値	—	0人	0人
評 価 <input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・平成32年度（令和2年度）の大量退職（7名）に伴う消防力低下を回避するため、構成市町と協議して部分的に前倒し採用（2名）を行うことができましたが、時限的な特例であるため、継続した協議が必要です。 ・再任用職員の採用については目標を達成することができませんでしたので、嘱託職員の採用、定年延長問題と併せて協議していく必要があります。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・前倒し採用については、平成31年度（令和元年度）の採用計画まで了承されています。原則は、退職者の補充分の採用について進められるものですが、昨今の消防業務の拡大に伴う、職員の負担は明らかに増加しているため、職員定数内での実働人員の増員について検討し、一部改善の方向で協議を進めなければなりません。 ・再任用職員の採用についても、退職者の希望に沿える最低限の整備が必要であり、実働人員の増員と併せて検討を重ねていく必要があります。			
担当者所見 ・新規採用職員については、消防学校初任科への入校が必須であるため、その期間については実働人員が減っていること。また、毎年度、研修に伴う長期入校等もあることから実働人員の見直しについて検討しなければなりません。このことを踏まえて、退職者の完全前倒し採用及び新規採用職員（1年間）を条例定数外とすることについて、同じ議論の枠組みの中で協議しなければならないと考えています。さらに、再任用職員の採用についても、条例定数外とすることを念頭に協議を継続すべきであると考えています。			

0502 職員研修体制の充実 <<目標・指標>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
消防学校研修事業	22人	26人	28人
達成値	—	25人	27人
消防大学校研修事業	1人	1人	1人
達成値	—	1人	1人
消防職員安全 衛生研修会	2人	2人	2人
達成値	—	2人	2人
消防長会研修事業	3人	3人	3人
達成値	—	2人	1人
評 価 <input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・各種研修会等に、多くの職員を派遣することができました。目標に近い値で概ね達成できたと考えています。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・人材育成を行う上で、継続した研修会等への職員派遣が必要です。			
担当者所見 ・複雑多様化する災害現場及び救急需要の増大、又は、法令改正等による消防事務に対応するため、教育機関等への派遣は必要です。それと併せて、署内での訓練や研修についても計画的に進めていきたいと考えています。			

0503 事務執行体制の効率化 <目標・指標>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
組織・事務に関する 規程	新規作成	見直し	改正
達成値	—	決裁規程の見直し	改正
庁内事務システム 管理運営	保守点検	保守点検	保守点検
達成値	—	保守点検実施	保守点検実施
評 価 <input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・ 組織改革に伴い、消防署の組織に関する規程及び事務決裁規程の一部改正を行いました。 また、火災原因調査業務の効率化を目的として、火災調査規程についても一部改正を行っています。 ・ 庁内事務システムの管理については、保守点検を実施して適正に管理運営ができています。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 継続			
意見 ・ 今後についても、効率的な消防行政の運営体制を構築させるために、事務分掌等の見直しが必要です。 ・ 庁内事務システムは、安定した管理運営を行う上で、保守点検を継続させる必要があります。			
担当者所見 ・ 事務の執行については、消防行政における各分野の専門化が進んでいます。これに対応するためにも組織体制や事務の効率化については、今後も検討していきたいと考えています。			

0504 経営的効率性の向上<<目標・指標>>

指 標	(平成28年度) 現状	(平成29年度) 目 標 値	(平成30年度) 目 標 値
財務状況の公表	公表	公表	公表
達成値	—	公表	公表
消防組合 基金の整備	剰余金返還	基金整備検討	基金整備検討
達成値	—	方向性の決定	方向性の決定
評 価 <input type="checkbox"/> S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C			
意見 ・ 財政状況を公表し財務事務の透明性を確保しました。 ・ 基金の整備については市町との協議において方向性は決定しています。			
改 善 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持			
意見 ・ いずれの指標についても、長期的な視点で継続性を持って取り組んでいくものです。			
担当者所見 ・ 公会計における財務書類の作成・公表については、国から統一的な基準が示されているため、平成31年度（令和元年度）中に作成を行い、ホームページにて公表を予定しています。 ・ 基金の整備につきましては、方向性について決定されましたので、構成市町との協議・調整を継続させる必要があります。			